

宮崎県感染症週報

宮崎県感染症情報センター
宮崎県健康増進課
宮崎県衛生環境研究所

■ 宮崎県第 41 週の発生動向

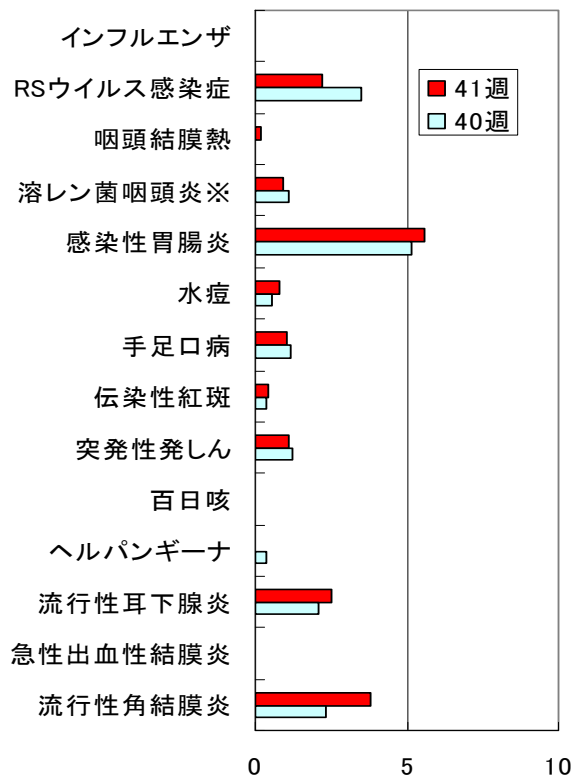
《前週との比較》

定点医療機関からの報告総数は 560 人（定点あたり 18.7）で、前週比 103% とほぼ横ばいであった。

先週に比べ多かった主な疾患は流行性耳下腺炎と感染性胃腸炎で、減少した主な疾患はヘルパンギーナとRSウイルス感染症であった。

流行性耳下腺炎の報告数は 91 人（2.5）で前週比 121% と増加した。例年同時期の定点あたり平均値（1.3）の約 1.9 倍と多い。延岡（8.3）保健所からの報告が多く警報レベルを超えている。年齢別では 3 歳から 7 歳で全体の約 6 割を占めた。

感染性胃腸炎の報告数は 201 人（5.6）で前週比 108% と増加した。例年同時期の定点あたり平均値（6.5）の約 9 割である。中央（12.0）、小林（11.0）、日向（10.0）からの報告が多く、年齢別では 1 歳から 3 歳で全体の約半数を占めた。



《定点あたり報告数》
※A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

■ 保健所別流行警報開始基準値超過疾患

	流行警報 開始基準値	定点あたり報告数		年齢分布
		宮崎県全体	基準値を超えた保健所	
流行性耳下腺炎	6	2.5	延岡(8.3)	3歳～7歳で全体の約6割を占めた。

■ 全数把握対象疾患

1 類感染症 : 報告なし。

2 類感染症 : 結核 4 例が日向 (2 例)、宮崎市・高鍋 (各 1 例) 保健所から報告された。

《宮崎市保健所》・80 歳代の男性で疑似症患者。発熱がみられた。

- 《高鍋保健所》 ・ 80 歳代の男性で肺結核。咳がみられた。
- 《日向保健所》 ・ 60 歳代の男性で肺結核。
- ・ 90 歳代の男性で肺結核。痰、発熱がみられた。

- 3 類感染症 : 腸管出血性大腸菌感染症 1 例が小林保健所から報告された。30 歳代の女性で無症状病原体保有者。原因菌の血清型は 091 (VT1 産生)。
- 4 類感染症 : 報告なし。
- 5 類感染症 : アメーバ赤痢 1 例が延岡保健所から報告された。50 歳代の男性で腸管アメーバ症。粘血便がみられた。

■ 病原体情報 (衛生環境研究所 微生物部)

ウイルス (平成 22 年 10 月 14 日～平成 22 年 10 月 19 日までに分離同定)

同定ウイルス名	年齢	性	採取日	臨床診断名	材料	同定日
インフルエンザAH1pdm型	26	女	10.14	インフルエンザ、40℃、咳、鼻水、頭痛、関節痛	鼻ぬ*	10.19
インフルエンザAH1pdm型	17	男	10.14	インフルエンザ、38.5℃、咳、痰、咽頭痛、頭痛	鼻ぬ*	10.19

鼻ぬ*: 鼻腔ぬぐい液

○都城保健所管内で、インフルエンザA型の報告があった。遺伝子検査の結果、インフルエンザAH1pdm(新型)が検出された。9月以降4例目、5例目の報告である。

■ 全国第 40 週の発生動向

定点医療機関あたりの患者報告総数は 9.3 で、前週比 105%であった。今週増加した主な疾患はインフルエンザとRSウイルス感染症で、減少した主な疾患はヘルパンギーナと手足口病であった。

インフルエンザの報告数は 537 人 (0.11) で、前週比 183%と増加したが、例年同時期の約 1 割である。沖縄県 (1.2)、岩手県 (0.58)、福岡県 (0.41) からの報告が多く、年齢別では 5 歳以下が全体の 36%、6 歳から 9 歳が 19%、10 歳から 14 歳が 8%、15 歳から 19 歳が 4%、20 歳代から 50 歳代が 28%、60 歳以上が 5%を占めた。

RSウイルス感染症の報告数は 1,057 人 (0.35) で、前週比 117%と増加した。例年同時期の約 1.8 倍である。宮崎県 (3.5)、鹿児島県 (1.7)、福岡県 (1.1) からの報告が多く、年齢別では 2 歳以下で全体の約 9 割を占めた。

全数把握対象疾患

- 1 類感染症 : 報告なし。
- 2 類感染症 : 結核 265 例
- 3 類感染症 : 細菌性赤痢 10 例、腸管出血性大腸菌感染症 92 例、腸チフス 1 例、パラチフス 1 例
- 4 類感染症 : E 型肝炎 1 例、つつが虫病 1 例、デング熱 9 例、日本紅斑熱 1 例、日本脳炎 1 例、レジオネラ症 11 例、レプトスピラ症 3 例
- 5 類感染症 : アメーバ赤痢 10 例、ウイルス性肝炎 1 例、クロイツフェルト・ヤコブ病 2 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 例、後天性免疫不全症候群 13 例、ジアルジア症 1 例、梅毒 12 例、破傷風 2 例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1 例、麻しん 2 例

■月報告対象疾患の発生動向 <9月>

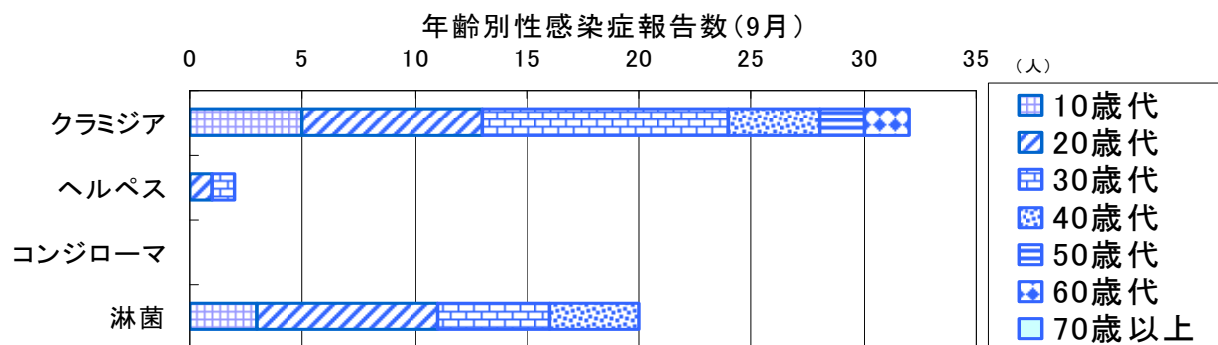
□性感染症

【宮崎県】 定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は54人（4.2）で、前月比86%と減少した。昨年9月（4.8）の約9割であった。

《疾患別》

- 性器クラミジア感染症：報告数32人（2.5）で、前月の約9割、前年の約8割であった。都城（4.5）、宮崎市（4.0）保健所からの報告が多く、男性23人、女性9人で、20歳代・30歳代がそれぞれ全体の約3割を占めた。
- 性器ヘルペスウイルス感染症：報告数2人（0.15）で、前月・前年の約2割であった。20歳代と30歳代の女性であった。
- 尖圭コンジローマ：報告はなかった。
- 淋菌感染症：報告数20人（1.5）で、前月の約1.4倍、前年の約2.2倍であった。男性18人、女性2人で、20歳代が全体の約4割、30歳代が全体の約3割を占めた。



【全国】 定点医療機関総数：959

定点医療機関からの報告総数は4,377人（4.6）で、前月比99%であった。疾患別報告数は、性器クラミジア感染症2,297人（2.4）で前月比101%、性器ヘルペスウイルス感染症649人（0.68）で前月比88%、尖圭コンジローマ448人（0.47）で前月比102%、淋菌感染症983人（1.0）で前月比102%であった。

□薬剤耐性菌

【宮崎県】 定点医療機関総数：7

定点医療機関からの報告総数は36人（5.1）で前月比95%とほぼ横ばいであった。また昨年9月（7.0）の約7割であった。

《疾患別》

- メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数29人（4.1）で、前月・前年の約9割であった。高鍋（9.0）、宮崎市（6.0）、延岡（5.0）保健所からの報告が多く、70歳以上が全体の約6割を占めた。
- ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告数7人（1.0）で、前月の約1.2倍、前年の約4割であった。宮崎市（5.0）保健所からの報告が多く、1歳から9歳が全体の約6割を占めた。
- 薬剤耐性緑膿菌感染症：報告はなかった。

【全国】 定点医療機関総数：467

定点医療機関からの報告総数は2,266人（4.9）で、前月比89%であった。疾患別報告数は、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症1,927人（4.1）で前月比89%、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症284人（0.61）で前月比84%、薬剤耐性緑膿菌感染症55人（0.12）で前月比92%であった。

宮崎県 感染症情報

(72定点医療機関)

2010年 第41週(10月11日～10月17日)

疾病名		第40週	第41週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	3	3		3							
	定点あたり	0.05	0.05	0.00	0.30	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
RSウイルス 感染症	報告数	126	79	9	3	34			9		24	
	定点あたり	3.50	2.19	0.90	0.50	8.50	0.00	0.00	2.25	0.00	6.00	0.00
咽頭結膜熱	報告数	3	6	2		2	2					
	定点あたり	0.08	0.17	0.20	0.00	0.50	0.67	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	報告数	39	33	6	2	9	3		6	1	5	1
	定点あたり	1.08	0.92	0.60	0.33	2.25	1.00	0.00	1.50	1.00	1.25	1.00
感染性胃腸炎	報告数	186	201	32	30	9	17	33	26	2	40	12
	定点あたり	5.17	5.58	3.20	5.00	2.25	5.67	11.00	6.50	2.00	10.00	12.00
水痘	報告数	19	28	7	5	8			7		1	
	定点あたり	0.53	0.78	0.70	0.83	2.00	0.00	0.00	1.75	0.00	0.25	0.00
手足口病	報告数	41	38	20	4	4			3		6	1
	定点あたり	1.14	1.06	2.00	0.67	1.00	0.00	0.00	0.75	0.00	1.50	1.00
伝染性紅斑	報告数	14	16	2	9			3	1			1
	定点あたり	0.39	0.44	0.20	1.50	0.00	0.00	1.00	0.25	0.00	0.00	1.00
突発性発しん	報告数	44	39	14	5	6	2	1	5		4	2
	定点あたり	1.22	1.08	1.40	0.83	1.50	0.67	0.33	1.25	0.00	1.00	2.00
百日咳	報告数	2	1			1						
	定点あたり	0.06	0.03	0.00	0.00	0.25	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
ヘルパンギーナ	報告数	14	2			1	1					
	定点あたり	0.39	0.06	0.00	0.00	0.25	0.33	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
流行性耳下腺炎	報告数	75	91	11	8	33	11		9		16	3
	定点あたり	2.08	2.53	1.10	1.33	8.25	3.67	0.00	2.25	0.00	4.00	3.00
急性出血性結膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00						
流行性角結膜炎	報告数	14	23	20	2	1						
	定点あたり	2.33	3.83	6.67	1.00	1.00						
細菌性髄膜炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
無菌性髄膜炎	報告数	1										
	定点あたり	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
マイコプラズマ肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	
クラミジア肺炎	報告数											
	定点あたり	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		0.00	

インフルエンザ定点:59、小児科定点:36(インフルエンザ定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

上段:報告数
下段:定点当り報告数

●全数把握対象疾患累積報告数(2010年第1週～第41週)

2類感染症	結核	167例(4)			
3類感染症	細菌性赤痢	1例	腸管出血性大腸菌感染症	48例(1)	
	E型肝炎	1例	A型肝炎	3例	つつが虫病 1例
4類感染症	デング熱	1例	日本紅斑熱	4例	マラリア 2例
	レジオネラ症	2例	レプトスピラ症	2例	
5類感染症	アメーバ赤痢	4例(1)	ウイルス性肝炎	7例	急性脳炎 6例
	クロイツフェルト・ヤコブ病	1例	後天性免疫不全症候群	3例	梅毒 5例
	破傷風	5例	麻しん	1例	

()内は今週届出分、再掲

こども感染症情報

インフルエンザに注意しましょう。(10月11日～10月17日)

2週連続でインフルエンザの報告がありました。都城市では、新型インフルエンザの集団発生もありました。

インフルエンザに感染すると39～40度の突然の発熱、頭痛、関節痛、筋肉痛、寒気などの全身の症状がでますが、通常は1週間程度でよくなります。熱が下がってもウイルスを排出しますので、感染を広げないためにも数日は安静にし、休養を取ることをおすすめします。特に、体力の無い小さな子どもやお年寄りには感染すると重症化することもありますので注意が必要です。

インフルエンザはくしゃみや咳によって飛沫感染します。すでにかかってしまった人は周りの人にうつさないためにも、まだかかっていない人は自分自身が感染しないためにもマスクを着用しましょう。

インフルエンザのウイルスは空気の乾燥した状態で活発になります。そのため、加湿器などを利用して部屋の湿度を保つようにしましょう。また、室内の換気は定期的に行いましょう。

日頃の石けんでの手洗いとうがい、ワクチン接種で感染予防に努めましょう。10月1日からワクチン接種が行われていますので、接種を検討してください。